

申請者の現状(基本情報) (別紙1)

作成日	令和〇年〇月〇日	相談支援事業者名	相談室〇〇	計画作成担当者	〇〇〇〇
-----	----------	----------	-------	---------	------

1. 概要(支援経過・現状と課題等)

脳性麻痺とてんかんがあり、幼児期から児童発達支援センターを利用。肢体不自由児が通う特別支援学校の小学部から同校の中学部に進学し、現在、中学3年生。小学部の頃から放課後等デイサービスAを週2回利用している。杖での独歩と保護帽を使用。食事は普通食で、好き嫌いなく何でも食べる。言葉は、筋緊張により発音が不明瞭なところもあるが、日常会話は可能。友達同士のガールズトークのほか、妹とYouTubeやTikTokと一緒に見て、歌とダンスを楽しむことが好き。両親は本人の様子(特にてんかん発作)から、同校の高等部への進学が本人のためだと考えていたが、本人が同じ放課後等デイサービスAに通う1歳年上の男子に好意を寄せたことを契機に、その男子が通う高等支援学校(発達障害児、知的障害児が主)に行きたいと強く希望を持つようになった。両親は、Bがこれまで比較的大人しく周囲の意見を素直に聞く子どもであったことから、自分の意志や気持ちを主張しはじめた心の育ちを頼もしく思う一方で、てんかん発作のほか、好きな男子との距離感を心配し、現在利用中の放課後等デイサービスAに相談したところ、活用できる支援機関を広げることを勧められ、相談室の利用に至った。相談室、本人、両親との話し合いの中で、高校受験のためにも、いろいろな人と関わり、いろいろな経験をしたいとの希望が出てきたことから、その一つの活動先として新たな放課後等デイサービスを探すこととなった。

2. 利用者の状況

氏名	児童B	性別	女	生年月日	令和〇年〇月〇日	年齢	15歳	電話又はFAX番号	〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇
住所	札幌市〇〇区 <span style="float:right">持家・借家・グループホーム・入所施設・医療機関・その他( )</span>								
障害または疾患名	脳性麻痺、てんかん	障害者手帳(種別・等級)	身障手帳1種2級	援護地		障害支援区分			
経済状況	(収入) 家族の所得	(年金)		(手当)		児童手当			
保護者または緊急連絡先	(氏名) 児童B母	(続柄) 母	(電話番号) 〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇						

<p>家族構成 ※年齢、職業、主たる介護者等を記入</p> <p>祖父母は協力的 近所に在住</p> <p>東京で 単身赴任</p> <p>42</p> <p>41</p> <p>15</p> <p>13</p> <p>中1 しっかり者</p> <p>専業主婦</p>	<p>社会関係図 ※本人と関わりを持つ機関・人物等(役割)</p> <p>相談室〇〇</p> <p>母方祖父母</p> <p>母</p> <p>妹</p> <p>〇〇病院</p> <p>父</p> <p>高等支援学校</p> <p>放課後等デイサービスA</p> <p>特別支援学校 中学部</p>
--	---

<p>生活歴 ※受診歴等含む</p> <p>【周産期】里帰り出産で28週で緊急帝王切開にて出産。体重1250g身長39cm胸囲23cm頭囲27cm。呼吸状態が不安定のため気管挿管・呼吸器装着。5日目に抜管。1か月後未熟児網膜症。ミルクは口腔摂取可能だったが吐き出すことが多かった。生後80日にてんかん発作。</p> <p>0歳 児童発達支援センター利用。</p> <p>6歳 特別支援学校小学部に入学。放課後等デイサービスA利用開始</p> <p>12歳 特別支援学校中学部に進学。</p> <p>15歳 進路で悩み、セルフプランから相談支援事業所の支援に変更し、追加で他の放課後等デイサービスの利用を希望。</p>	<p>医療の状況 ※受診科目、頻度、主治医、疾患名、服薬状況等</p> <p>・〇〇病院: 定期受診 脳波(てんかん)</p> <p>健康保険( )</p>
--	--

<p>本人の主訴(意向・希望)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学部の卒業後は、高等支援学校に行きたい。</li> <li>・彼氏がほしい。</li> <li>・大人になったら働いて自分のお金で美味しい物を食べたり、いろいろな人と関わりたい。</li> </ul>	<p>家族の主訴(意向・希望)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな経験を積み、いつまでも笑顔で自分らしく過ごしてほしい。</li> <li>・自己主張が出てきたのは頼もしいが、現実的ではないことも多く、対応に悩むことが多い(進路含めて)。</li> <li>・地域の中で、社会とのつながりを持ちながら生活してほしい。</li> <li>・最近好きな子の話が、恋愛関係や性的な問題が心配。</li> </ul>
---	--

3. 支援の状況

	名称	提供機関・提供者	支援内容	頻度	備考(担当者・連絡先)
公的支援 (障がい福祉サービス等)	中学部	特別支援学校	学習	週5回	
	相談支援事業	相談室〇〇	利用計画作成、モニタリング、事業所調整	随時	
	放課後等デイサービス	放課後等デイサービス〇	小集団支援	週2回	
その他の支援	小児科	〇〇病院	てんかん	定期的	



# ADL等 基本情報シート

氏名 児童B(15歳)

日常生活	食事	普通食。介助不要。 好き嫌いはなく何でも食べられる。
	排泄	自立
	身の回り	自立だが、てんかん発作後、手伝いが必要な場合もある。
発達	運動機能	【粗大運動】 杖を使って走ることも可能だが、走ると転びやすい。 疲れがたまると、姿勢保持が困難になりがち。 下肢装具靴使用。 【微細運動】 細かい作業にもチャレンジするものの、苦手な作業で手伝いが必要。
	知能	【記憶、理解】 記憶力は高くはない。特に関心の低い事柄は覚えていないことがある。 【話す、読み書き】 おしゃべりが大好き。 読むことは好きだが時間がかかる。 書くことは字が汚いことを気にしており、PC入力を好む。
	社会性	【コミュニケーション】 日常会話で困ることは少ないが、筋緊張により発音が不明瞭なため、聞き直しが必要。
		【対人関係】 積極的に人と関わりたい気持ちが強く、誰とでもコミュニケーションをとることができる。 人との距離感が近く、相手の言動で思い込みや想像がふくらみやすい傾向がある(特に男性に対して)。 【集団生活、ルール、マナーなど】 集団において、本人が理解しているルールやマナーについては、守ることができる。 ただし、経験不足により、周囲を見て自分で気が付くことが難しく、言われないとわからないことも多い。 また、物事を自分の理解や経験の範囲内で考えてしまうため、周囲との認識のズレが生じやすい。

健康管理	服薬	バルプロ酸Na、ラコサミド
	視力・聴力	眼鏡をかけている。
	睡眠状況	問題なし
	アレルギー	なし
	補装具・自助具	杖、保護帽、下肢装具靴使用
発達や学力の検査結果等	知能検査(発達相談にて) 生活年齢15年2か月 知能指数 IQ=50	
	【電話、買い物、調理、金銭管理、洗濯、掃除、交通手段の利用など】 IADLについて、方法等はおおむね理解しており、経験しながら一人で行えることが増えはじめている。	
	IADL	
家族	【母】 専業主婦 【父】 会社員、東京で単身赴任中、月1回帰宅 【妹】 中学1年	
	3人で暮らしており、近所に住む母方祖父母の協力を得ながら生活している。 子どもにいろいろな経験をさせたいという両親の願いから、父の帰社時にキャンプや温泉旅行、買い物など、家族で出かけることが多い。 家族関係は良好。	

<放課後等デイサービス見学時の様子>

【Bさんの様子】

- ・移動は杖歩行。事業所内では、支えとなるものがあれば、床や椅子からの立ちあがり動作、着座が可能で、自分で状況を判断し、動くことができていた。
- ・杖を珍しがる他児に対しては、質問に対して丁寧に説明。質問されていない保護帽についても、自ら説明していた。
- ・特に、中高生女子に積極的に自己紹介をしていた。
- ・スタッフに対しても、自分の話を積極的に伝えていた(発作前は声が震えるため、その際は床に座るよう言ってほしい。発作中に意識はあり、声も聞こえるため、見守っていてほしい。発作後は活動できないこともあるが、みんなの活動を見学したいなど)。
- ・男性職員から、上記自己紹介等について、「とてもわかりやすかったよ。ありがとう。何かあったら手伝うので教えて下さい」と言われた際、嬉しそうに顔を赤らめていた。その後は、男性職員に意識的に話しかけ、全体での活動の説明を聞いていない時もあった。
- ・お菓子作りの活動において、細かな作業が難しく、隣にいる中学生に声をかけたがうまく伝わらない場面があったが、上記の男性職員を呼び、手伝ってもらっていた。また、周囲を見て、自分で使用済みのボウルなど片づけるような場面もあった。
- ・排泄に関する心配はない様子。
- ・服のすそが出ていることがあった。

【母の様子】

- ・見学時、本人の高揚した様子から、「嬉しくなると興奮して、相手にしつこく言ってしまうことがあるので心配」と話していた。
- ・特に、男性職員に好意を示す様子を心配していたため、職員が相手の場合は、人付き合いの練習になる旨を説明すると、少し安心した様子だった。
- ・これまでてんかん発作もあり、限られた人間関係の中で過ごすことが多く、年齢の割に幼い部分もあるが、最近はインターネット等で恋愛や性の情報を知り、きわどい質問もするようになって困っているとのことで、事業所における性に関する指導方針等を確認していた。
- ・本人の経験を広げるため、福祉サービスに限ることなく、広く地域と関わる機会を持ってほしいとの希望を話していた。

## サービス等利用計画・障害児支援利用計画(計画様式2-1)

				作成日	令和○年○月○日	利用者同意署名欄	○○○○
利用者氏名	児童B 様	障害支援区分	利用者負担上限額	円	相談支援事業者名	相談室○○	
受給者番号	○○○○○				計画作成担当者名	○○○○	電話 ○○○-○○-○○○

◎サービス担当者会議(会議を開催していない場合は、専門的意見を聴取した事業者名称と担当者名を記入します)

会議実施日	令和○年○月○日						
会議出席者	事業者等名称		放課後等デイサービスA	放課後等デイサービス○○	特別支援学校中学部		
	担当者名	母	○○○○	○○○○	○○○○		

◎生活に対する意向、援助方針

利用者及びその家族の生活に対する意向	<p>(Bさん)・自分でできることが増えてきたので、友達といろいろな経験をしたい、彼氏も欲しい。                  ・高等支援学校で就職のための勉強をしたい。                  ・いつか自分で働いたお金で美味しい物を食べたい。いろいろな人と関わって、人のために何かしたい。一人暮らしもしたい。                  (保護者)・地域の中でいろいろな経験をしながら、いつまでも笑顔で自分らしく過ごしてほしい。                  ・自己主張が出てきたのは頼もしいが、進路など非現実的なことも多く、対応に迷む。恋愛や性的問題も心配。</p>
総合的な援助の方針	<p>体調管理を行いながら生活上の必要なサポートを行うとともに、学校、放課後等デイサービスや地域活動を通して社会経験を豊かにします。                  Bさんの希望や意向を大切にしつつ、周囲の考え方もすり合わせながら、進路やこの先の生活を自己決定できるための支援を行います。</p>
長期目標	<p>(Bさん)・てんかんとうまくつきあいながら、自分でできることを増やす。                  ・人の役にたてるよう、いろいろな人と関わり、様々なことに挑戦する。高等支援学校に進学して、職業訓練を受ける。                  (保護者)・本人も親も納得する進路を選択し、進路選択をきっかけに子どもの成長を感じる。                  ・本人が悩むときは、一緒に考えられるチームの一員として関わる。</p>
短期目標	<p>(Bさん)・彼氏がほしい。                  ・一人でバスに乗り、高等支援学校に行くための練習をして、自信をつける。                  (保護者)・進路や恋愛、性に関する心配を相談できる人を見つけ、心に余裕を持ちながら、本人の希望に耳を傾けられる。</p>

◎モニタリング予定月

	支給期間											
	令和    年    月    日    ~    令和    年    月    日											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
令和    年度												
令和    年度												
令和    年度												
令和    年度												

区保健福祉部受理日	令和 年 月 日	福祉支援 保健支援 担当者
-----------	----------	------------------

## サービス等利用計画・障害児支援利用計画(計画様式2-2)

### ◎解決すべき課題、提供される福祉サービス等の目標及びその達成時期など

優先順位	解決すべき課題・本人のニーズ	支援目標	達成時期	福祉サービス等の種類、内容、量	提供事業者名(担当者名・電話)	課題解決のための本人の役割	評価時期	その他留意事項
1	(Bさん) 学校、放課後等デイサービス等で身近な大人、友達と関わり、いろいろな経験をしたい。	学校や放課後等デイサービスで、Bさんの得意なことや挑戦したいことを意欲的に取り組めるよう支援する。				<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達や職員と一緒にいろいろな経験や挑戦をしましょう。</li> <li>・コミュニケーションの中で、自分の気持ちを相手に伝えましょう。また、相手の話を聞いて、他の人の気持ちも知りましょう。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・てんかん発作は、季節の変わり目に変化しやすいので、気が付けるよう本人や家族と連携してください。</li> <li>・筋緊張すると発音が不明瞭になることがあります。</li> <li>・筋緊張は、疲れている時や興奮した時になりやすいです。</li> </ul>
2	(Bさん) 高等支援学校に行けるように、できることを増やして、大人に近づきたい。彼氏がほしい。	体調に配慮しつつ、社会経験や体験が積めるよう機会を提供するとともに、活動後の振り返りなどを通じて社会性を身につけるためのお手伝いをします。	6か月	高等支援学校 中学部 通学 5日/週  放課後等デイサービス 14日/月  放課後等デイサービスA 火曜日・木曜日  放課後等デイサービス 土曜日	特別支援学校 中学部 担当:○○○○ 連絡先:○○○○  放課後等デイサービスA 担当:○○○○ 連絡先:○○○○  放課後等デイサービス○○ 担当:○○○○ 連絡先:○○○○  相談室○○ 担当:○○○○ 連絡先:○○○○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体調の変化や、難しい活動がある場合、周りの人に手助けしてもらいつつ、出来るようになるための方法を一緒に考えてもらいましょう。</li> </ul>	6か月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人とのコミュニケーションや振る舞いにより、想像力がふくらみやすく、人との距離(特に異性)が近いと感じさせることがあります。心配もありますが、同時に成長の機会と捉えています。</li> </ul>
3	(保護者) 学校の進路を含めて相談にのってほしい	Bさんの様々な体験を通して、学校の進路の他、将来の社会生活について保護者と一緒に考えていきます。必要に応じて関係機関と話し合いの場を設けます。				<ul style="list-style-type: none"> <li>・困ったことや相談したいことがあれば遠慮なくご連絡ください。</li> </ul>		

## サービス等利用計画・障害児支援利用計画(計画様式2-3)

◎週間計画表

	月	火	水	木	金	土	日	主な日常生活上の行動
4:00								
5:00	就寝	就寝	就寝	就寝	就寝	就寝	就寝	
6:00								
7:00	起床、身支度、朝食など	起床、身支度、朝食など	起床、身支度、朝食など	起床、身支度、朝食など	起床、身支度、朝食など	起床、身支度、朝食など	起床、身支度、朝食など	
8:00								
9:00						余暇		
10:00	学校	学校	学校	学校	学校	放課後等デイサービス〇〇	余暇	・平日は学校 ・放課後等デイサービスA(週2回) ※幼児から高校生まで幅広い年齢がいる事業所。宿題やゲーム活動が中心 ・放課後等デイサービス〇〇(週1回)
11:00								
12:00							昼食	
13:00								
14:00							余暇	
15:00								
16:00	余暇	放課後等デイサービスA	余暇	放課後等デイサービスA	余暇			
17:00						余暇		
18:00								
19:00	夕食、入浴、余暇	夕食、入浴、余暇	夕食、入浴、余暇	夕食、入浴、余暇	夕食、入浴、余暇	夕食、入浴、余暇	夕食、入浴、余暇	
20:00								
21:00								週単位以外のサービス
22:00								
23:00								
0:00	就寝	就寝	就寝	就寝	就寝	就寝	就寝	・〇〇病院小児科受診(月1回) ・休日は家族と外出することが多い
1:00								
2:00								
3:00								
4:00								

サービス提供によって実現する生活の全体像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな人間関係や居場所を増やすことで、コミュニケーションの適切な方法を学ぶとともに、自分を客観視できるようになる。</li> <li>・高校進学や将来の就労を意識した社会活動への参加を通じ、将来の自分の姿をより明確に、現実的に考えることができるようになる。</li> <li>・保護者が心配している恋愛や性的問題についても学ぶ機会を得て、悩みを共有するサポーターが増える。</li> </ul>
----------------------	---